

概要版

朝霞市 みどりの 基本計画

グリーンインフラの
推進に係るマスタープラン

2026 ~ 2035

朝霞らしいみどりを

みんなで育み暮らしに活かすまち

朝霞市は、便利な都会の顔と豊かな武蔵野の自然を併せ持つ魅力的なまちです。しかし、この50年で市内のみどりは約15%も減少してしまいました。

また、猛暑や豪雨など、近年の気候変動も私たちの生活に影響を与えています。この課題に向き合い、みどりの保全と活用を総合的に進める計画を策定しました。それが、これからのまちづくりの指針となるみどりの基本計画です。

今ある大切なみどりを守り、さらに自然の持つチカラを生かしていく。そのような、より住みやすく魅力的なまちづくりを、この計画とともに進めます。

概要版の構成



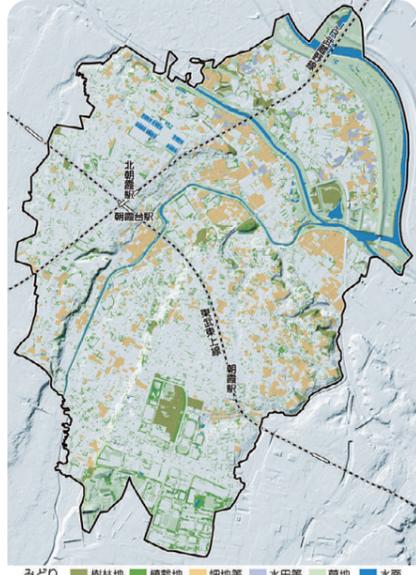
朝霞市キャラクター
ぼぼたん



みどりの現状と課題

減り続けるみどり

昭和48(1973)年には市の面積の49.8%がみどりで覆われていましたが、令和5(2023)年には34.8%まで減少しました。

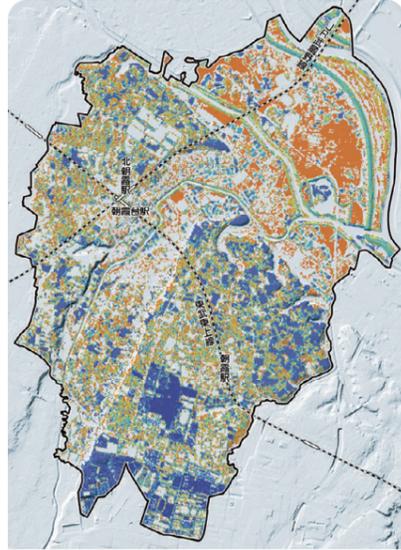


みどりの現状図

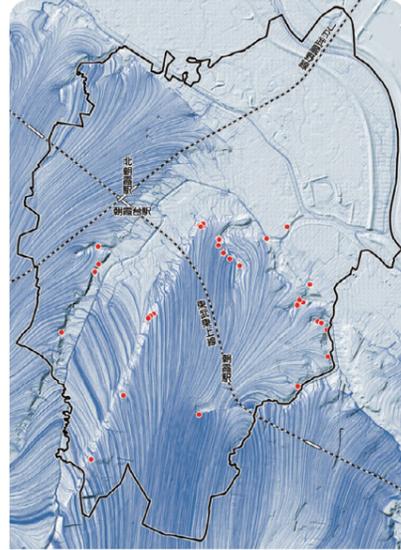
みどりのチカラ

1 雨水を浸み込ませ貯めるチカラ

- 台地のみどりは雨水を吸い込み、人工被覆は氾濫リスクを高めます。
- 低地のみどりは、流域の浸水被害の緩和に貢献します。
- 湧水を守るカギは台地に雨水を浸み込ませることにあります。



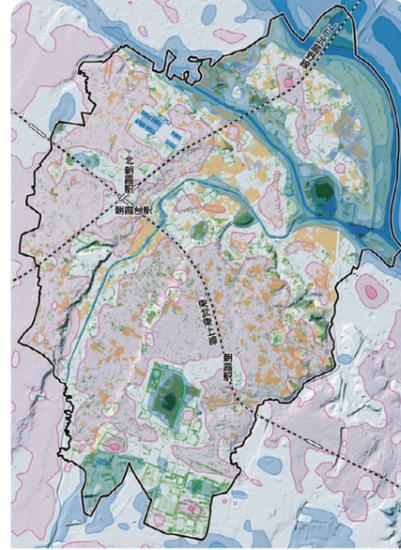
雨水の浸み込みやすさ



地下水の流れ

2 涼しさを生むチカラ

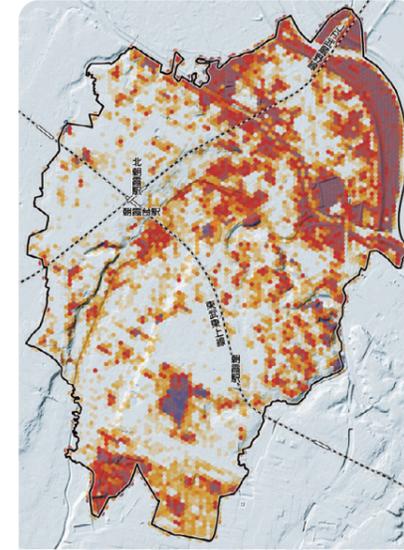
- 大きなみどりはクールアイランドとして冷気を広げます。
- 樹林地の減少はまちの温度上昇につながります。



みどりと涼しい場所の分布

3 炭素を蓄えるチカラ

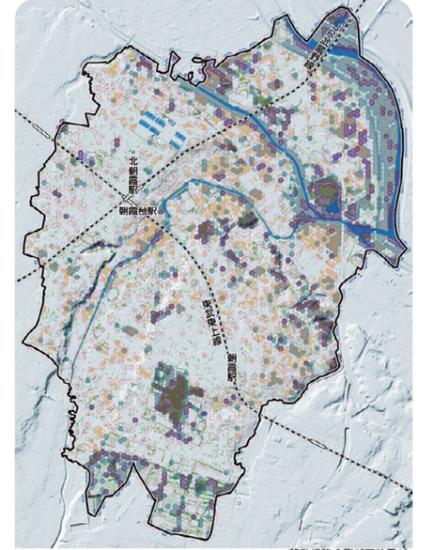
- 市内のみどりは年間約3千トンの炭素を蓄えています。
- 樹林地などのみどりが元気であることが大切です。



炭素を固定する能力

4 生き物の命を育むチカラ

- 斜面林や水辺は様々な生き物が生息する拠点です。
- 川や農地などは生き物が移動するための通り道となります。

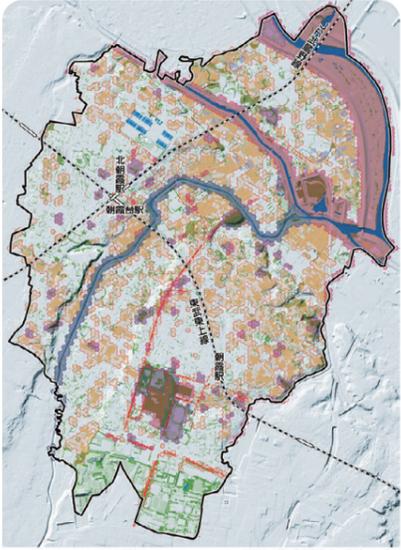


多くの生物が暮らせる可能性が高い場所

みどりのチカラに お金を配分するとしたら



市民アンケート調査において、みどりが持つ様々な機能に対して、総額1,000円持っているとして仮定したとどのように配分するかという質問を行いました。



市民が豊か・魅力的と思う景観資源の分布

5 風景を彩るチカラ

- 黒目川と基地跡地周辺のみどりが朝霞のシンボルです。
- 斜面林や農地などの身近なみどりも郷土の風景を形づくる大切な景観資源です。

6 農の恵みをもたらすチカラ

- 担い手不足が農地の減少を加速させています。
- 市民の間で「農ある暮らし」へのニーズが高まっています。

市民アンケート調査の結果、今後取り組みたい緑化活動として「市民農園などで野菜や草花を生産する」が1位となりました。

7 心身の健康を保つチカラ

- 川沿いは遊歩道がありますが、住宅地では歩道の連続性が課題です。
- みどり豊かで安全に歩ける道が求められています。

市民アンケート調査の結果、今後の重要な施策として「みどり豊かで安全に歩ける歩道空間の整備」が1位、「身近な公園等の充実」が2位、「川沿いの遊歩道の充実」が3位となりました。

8 健やかな成長を支えるチカラ

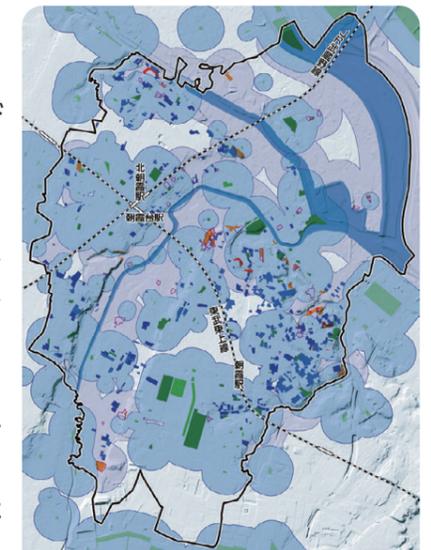
- 身近な公園が不足する地域があります。
- 川などの公園以外のみどりが身近な遊び場として役立っています。

9 交流を生むチカラ

- 公園に加え広場や河川空間など多様なみどりの空間がまちの活気を生み出すことに役立っています。

10 まちの安全を支えるチカラ

- 高齢者ほど身近なみどりを「命綱」として頼りにしています。
- 公園や都市農地は災害時に役立つ生きた備えとなります。
- 日常的にみどりを使いこなしコミュニティを育むことが地域防災力を高めることにつながります。



公園やみどりの空間の分布

みどりの課題

みどりが持つ多様な機能を生かして、まちづくりや地域の課題に対応すること

みどりの減少を抑制し、保全すること

身近なレクリエーション空間を充実させること

朝霞らしい魅力的なみどりをさらに充実させること

みどりの空間をネットワーク化させみどりに親しむ場を充実させること

公共空間の緑化を進めながら植栽などの適切な維持管理や更新を図ること

エコアップや都市気候の緩和等へ貢献する民有地の緑化を促進すること

みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みの検討やみどりの普及啓発を進めること

多様な市民が参加し連携・協働しながら公園緑地の利活用の促進を図ること

朝霞のみどりを生かしたライフスタイルを内外にアピールすること

地域に根づく都市公園として利活用の促進を図ること

農業体験や自然観察、ハイキングなど自然とのふれあいの機会の充実を図ること

1 基本理念

朝霞市は、武蔵野の面影を残す豊かなみどりに恵まれたまちです。台地上の畑や屋敷林、低地を流れる荒川や黒目川、斜面に残る湧水や樹林地、寺社などが、朝霞ならではの美しい風景をつくりだしています。こうしたみどりは、長い時間をかけて先人たちが大切に守り、育ててきた財産です。

みどりは景色として美しいだけでなく、農作物を育て、生き物のすみかとなり、大雨のときには水を蓄えて災害を防ぎ、夏の暑さを和らげます。また、私たちの心を癒し、日々の生活に安らぎと潤いを与えてくれます。

私たちの幸せな毎日には、身近なみどりが欠かせません。これからは、自然が持つチカラを上手に生かすグリーンインフラの考え方を取り入れ、みどりを守るだけでなく、みどりが生活の中で積極的に生かされるまちを目指して、次の理念を掲げます。

朝霞らしいみどりを
みんなで育み暮らしに生かすまち

2 基本方針

基本理念に掲げる「朝霞らしいみどりを みんなで育み暮らしに生かすまち」を実現するために、3つの基本方針に沿って計画を推進します。

基本方針 1

暮らしを支え豊かにする
朝霞らしい
みどりを整える

みどりが持ついろいろなチカラをまちづくりに上手に生かしていく視点を取り入れながら、今あるみどりを守り、新しいみどりを生み出し、適切に手入れすることで、朝霞らしいみどりを豊かにしていくことを目指します。

基本方針 2

みどりを支える
仕組みや担い手を
育て・広げ・つなげる

古くから大切にされてきたみどりそのものや、それを守る市民活動、長年積み重ねられた知識やノウハウは、朝霞市のかけがえのない財産です。この財産を大切に育みながら、活動する人同士を柔軟につなぎ、協力の輪を広げることで、みんなでみどりを支えていく仕組みを目指します。

基本方針 3

みどりのある
暮らしを楽しむ

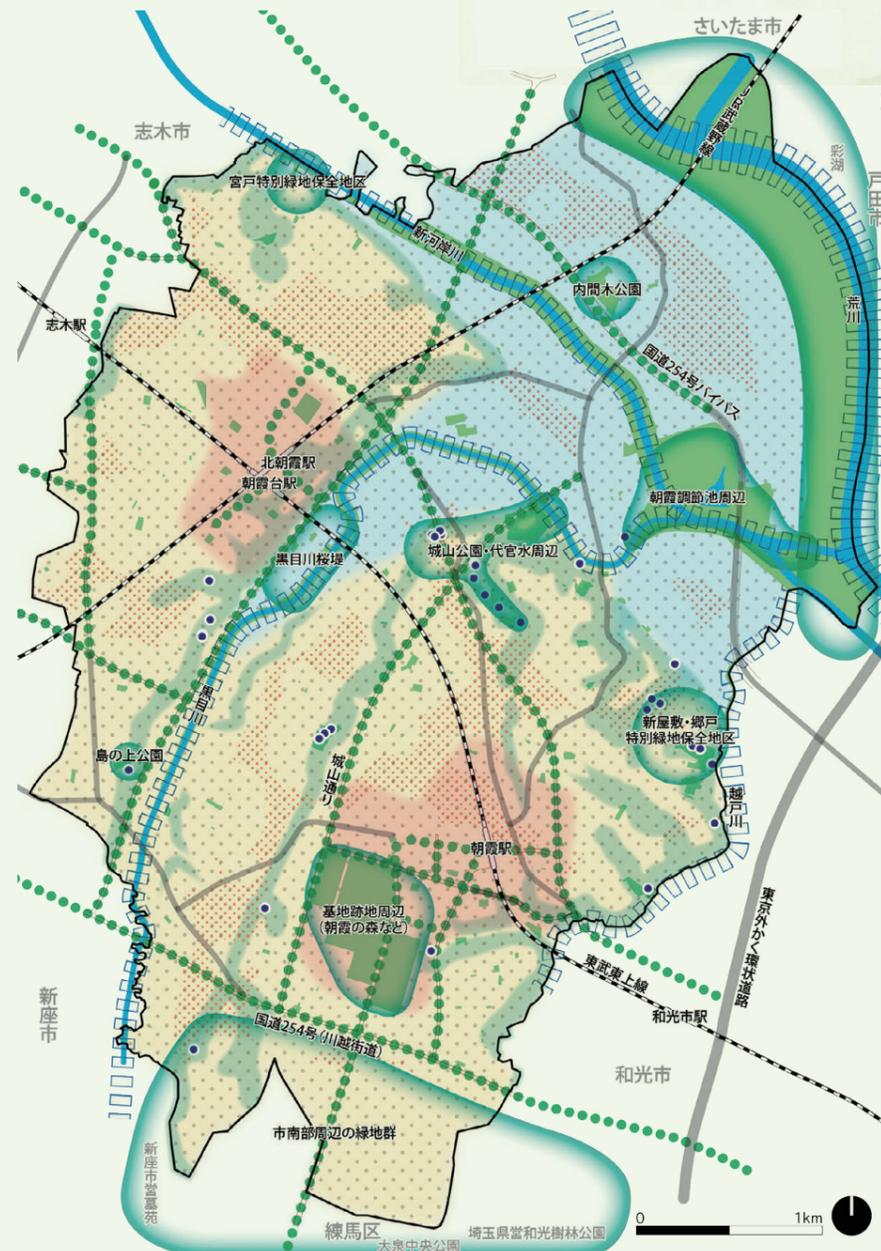
みどりの魅力をより多くの人に知ってもらう機会をつくり、見るだけでなく、ふれて体験することで、日常生活の中でみどりを身近に感じて楽しむ心地よい暮らしを、まち全体に広めていくことを目指します。

みどりの配置方針図

朝霞市のみどりは、地形の特徴に沿って広がっており、それぞれの役割ごとに「核」「回廊」「拠点」「基質」の4つに見立てます。これらを互いに結び合わせることで、大地に深く根を張る一本の大きな樹木のように、市全体のみどりをつなげていきます。



朝霞市のみどりのつながりをイメージした大きな樹木



- みどりの核・拠点
- ▬▬▬▬ みどりの回廊 (河川軸)
- みどりの回廊 (道路軸)
- ▬▬▬▬ みどりの回廊 (台地面と低地面の境界部)
- ▬▬▬▬ みどりの基質 (武蔵野台地面)
- ▬▬▬▬ みどりの基質 (荒川低地面)
- 湧水
- 都市公園等
- ▬▬▬▬ 身近な公園整備検討エリア (都市公園や公園的空間から離れたエリア)
- ▬▬▬▬ 居心地のよい快適な歩行空間の整備推進エリア
- ▬▬▬▬ 緑化重点地区 (市全域)

みどりの配置方針図

みどりの指針

01 みどりのチカラを上手に生かす指針 (グリーンインフラ指針)

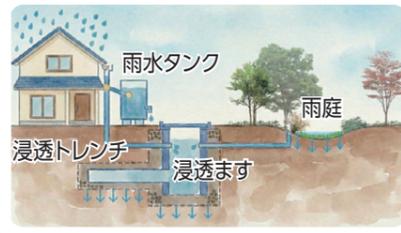
この指針は、10の視点に基づき、自然が持つ多様なチカラを上手に生かしながら、朝霞らしいみどりを豊かにすることを目指すものです。

1 健全な水循環を支えるみどり (雨水の浸透・貯留のチカラ)

まち全体が雨を優しく受け止める大きなスポンジになることを目指すものです。雨水をゆっくり地面にしみ込ませることで、地下水を蓄えながら、水害を防ぐ健やかな水の循環を育てます。

みどりを守る

雨水を一時的に貯める・地下に浸透させる



- 屋上の緑化
- 透水性舗装の採用
- 雨水貯留浸透 植栽基盤
- 雨水貯留碎石層 調整池の整備

2 都市の気温上昇を緩和するみどり (涼しさを生むチカラ)

ヒートアイランド現象を緩和するため、植物と水が持つ自然の冷却効果を生かしたまちづくりを目指すものです。クールアイランドになっているみどりを守り・育てることが大切です。

みどりを増やす みどりを守る

みどりで効果的に冷やす

- 建物の南側や西側に緑陰を配置
- 屋上・壁面の緑化
- みどりのカーテンの設置
- 池やせせらぎの配置
- 遮熱性舗装や保水性舗装の採用

3 地球温暖化の緩和に貢献するみどり (炭素を蓄えるチカラ)

みどりを守る・増やす

二酸化炭素(CO₂)を吸収してくれるみどりを守り・育てることで、地球温暖化を少しでも抑えらることを目指すものです。

適切な里山管理を行う

木が密集しすぎないように間伐を行うことで、残された木に光と栄養が行き渡り樹木が元気に育つことでCO₂をたくさん吸収できるようになります。

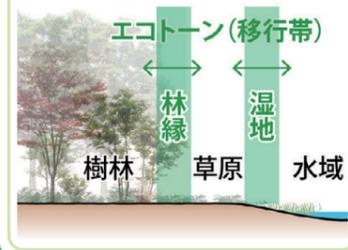
炭素固定を促進させる



4 生き物の生息場所となるみどり (生き物の命を育むチカラ)

朝霞の自然を未来へつなぎ、人と生き物たちが共に暮らす持続可能なまちを目指すものです。みどりとみどりをつなぎ、質を高めることで、地域の生態系を豊かにし、人間にとっても住みよい環境を育むことが大切です。

異なる自然の境界をつくる



生息環境の質を高める

立体的なみどりをつくる

朝霞本来の生き物を大切に

生息環境をつなげる(エコロジカルネットワークの形成)



5 まちの景観・郷土の風景を形成するみどり (風景を彩るチカラ)

まちの景観をつくっている朝霞らしいみどりを守り育て、その魅力を未来へ引き継ぐことを目指すものです。特に、黒目川や朝霞の森周辺のみどりは朝霞のシンボルであり、自然とふれあえる貴重な場所です。また、武蔵野の面影を残す斜面林や農地の風景も、失われないように守ることが大切です。

朝霞らしい風景を守る

潤いのある景観をつくる

癒しやにぎわいをもたらす景観を育てる

6 農業活動の場となるみどり (恵みをもたらすチカラ)

私たちの暮らしを支え、豊かにしてくれる身近な農業を守り育てることを目指すものです。農家が農業を続けやすいように支援するとともに、農業体験や地産地消を進め、防災や環境保全といった農地の役割についても理解を深めることが大切です。

農業を続けられる環境づくり

体験と学習を通じた「食」への理解

参加と交流で広がる地産地消の輪

7 健康づくりの場となるみどり (心身の健康を保つチカラ)

みどり豊かな遊歩道や公園を、私たちの健康を支える健康資産と考え、より健康になれるまちを目指すものです。まち全体の健康資産を充実させることや、多様な健康づくりができる場を増やすことが大切です。

みどりを生かした健康プログラムを充実させる

まちの中に健康資産を充実させる

歩道をつなげる

人にやさしい機能をつくる

健康づくりに役立つ公園にする

足腰を鍛えるコースや植物で癒やされる場所など

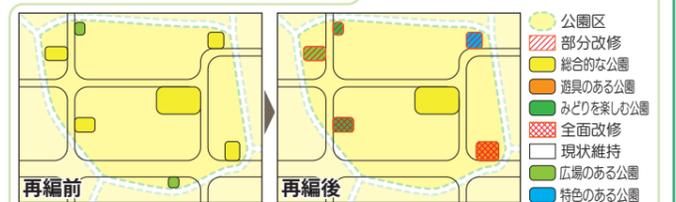
8 身近な遊び場となるみどり (健やかな成長を支えるチカラ)

朝霞市のどこに住んでいても、誰もが安全で魅力的な遊び場に行けることを目指すものです。

身近な公園を充実させる

公園の足りない地域をなくす

公園を直し役割を見直す



今あるみどりを生かして遊び場をつくる

市民みんなで遊び場をつくり、育てる

9 にぎわいや交流の場となるみどり (交流を生むチカラ)

市内にあるみどりの空間を使って、みんなが集まり、交流できる場所をつくることを目指すものです。

みんなでつくるにぎわいの場



みどりを生かした交流の場づくり



10 防災拠点となるみどり (まちの安全を支えるチカラ)

身近な公園を充実させることで、災害時に誰もが安心して避難できる場所を確保し、災害に強いまちづくりを目指すものです。

公園不足域に公園整備を進める

みどりのストック(財産)を活用する

公園の防災機能を高める



02 みどりを支える仕組みの指針 (グリーンマネジメント指針)

この指針は、みどりの財産を未来へ育み、多様な人々が連携してその価値を最大限に生かすための考え方を示しています。

支援体制を充実する

多様な財源の確保と運用の強化

多様な主体の連携

市の関係部署が協力し合うことや、市民・企業・行政の連携が充実することは、まち全体でみどりを支える体制づくりにつながります。

DXの活用

デジタル技術を活用することにより、効率的な公園管理や情報発信が可能になります。

みどりを使いこなす

協働の管理と魅力向上

市民や地域活動団体が主体的に係ることで、より魅力的な空間として育つ仕組みが構築されます。



多様なニーズに対応するみどりの柔軟な活用

公園ごとの利用ルールを地域の実情にあわせて検討し、柔軟な運用を可能にすることで、多様なニーズに対応する環境が生まれます。

- ① 対話の場 (ワークショップ)
- ② ルールづくり (合意形成)
- ③ 実践 (イベント開催・公園活動)
- ④ 改善

地域のニーズからルールづくりを検討 (野菜マルシェや花火遊びなど)



ワークショップで公園のルールづくり

参画の環を育む

みどりの担い手の育成と裾野拡大

プレーパークやみどりに係る講習会などは、みどりの活動に参加する人を増やすきっかけになり、新たな担い手の育成につながります。



プレーパークの風景



緑地管理の勉強会

担い手間のネットワーク構築と協働促進

活動したい市民とみどりの場所などを結びつける仕組みをつくり、交流を活発にすることで大きな参画の環が広がります。



担い手のマッチング

ネーミングライツ Park-PFI

生垣補助

プレーパーク

里山活動

みどりの講習会

ワークショップによる公園づくり

DXの活用

自然観察会

みどりのモニタリング活動

みどりの価値を学ぶ

みどりの現状把握とモニタリング

みどりの現状を正確に把握することは、科学的根拠に基づいた計画策定に生かされます。また、市民アンケート調査はニーズや満足度の把握に役立ちます。

みどりの多面的なチカラの評価と普及啓発

みどりの価値を見える化して広く普及啓発すると、みどりを守り育てる活動が促進されます。

03 あさかのみどりの魅力を楽しむ指針 (グリーンプロモーション指針)

この指針は、みどりがもたらす多面的な恵みを分かち合い、次世代へと続く持続可能な暮らし方を提案するものです。

みどりの魅力を見つけよう

体験を通じたみどりの魅力発見

公園などの空間を最大限に活用し、五感でみどりにふられる質の高いイベントが開催されると、これまでみどりに関心のなかった層にも魅力が伝わります。



農業体験



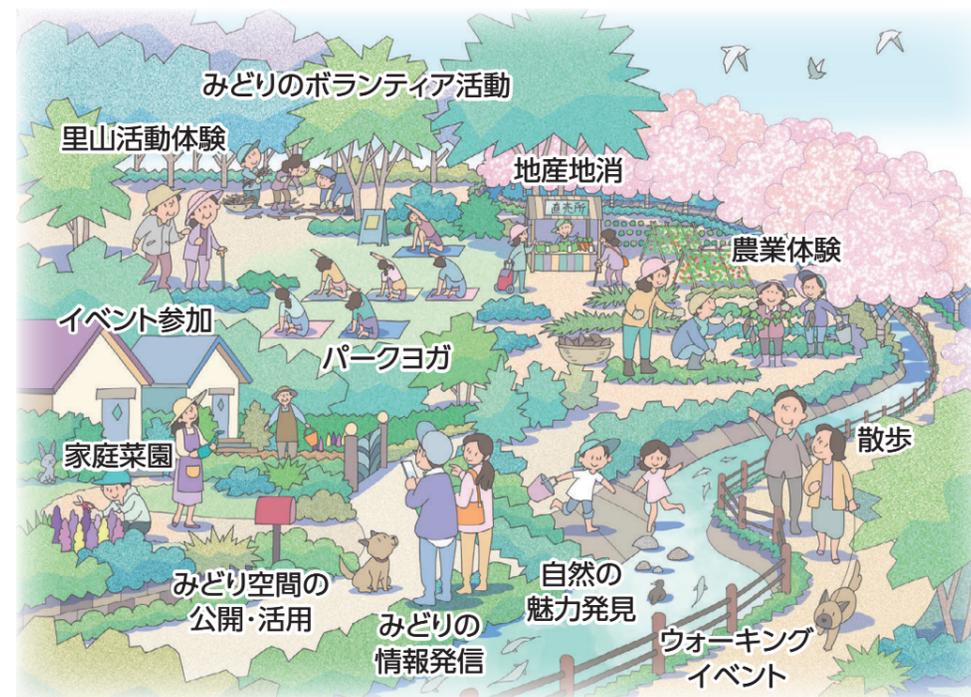
黒目川 川まつり



ウォーキングイベント

情報でみどりとつながる

情報発信の際に日常的に楽しめるコンテンツを充実させることで、情報の受け手である市民が次なる発信者となるような情報の循環が期待されます。



みどりのボランティア活動

里山活動体験

地産地消

イベント参加

パークヨガ

農業体験

家庭菜園

散歩

みどり空間の公開・活用

みどりの情報発信

自然の魅力発見

ウォーキングイベント

暮らしにみどりを取り入れよう

日常にあるみどりの楽しみ



育てる 家庭菜園



食べる 地産地消



歩く 散歩



集う イベント参加

コミュニティで支えるみどり

活動に必要な知識や技術を学べる講習会や団体間の交流は、公園サポーターや里山ボランティアなど、地域のみどりを市民が主体的に守り育てる活動の質と継続力を高めることにつながります。



道路の美化活動

共にみどりを育て未来につなげよう

個人のみどりをまちの宝へ

大学のキャンパスや寺社の境内など、民有地にある貴重なみどり空間を、所有者、地域住民、行政が連携し、地域の財産として公開・活用することは、新たな交流拠点や景観資源を創出します。個人のみどりが地域の価値を高め、ひいてはまちの魅力向上につながるという好循環が生まれます。

まち全体の価値向上

地域の魅力向上

個人のみどり

みどりの取組

みどりの将来像の実現に向け、3つの基本方針に基づく施策の柱、基本施策、具体的な取組となる個別施策を展開します。具体的な取組を進めるにあたっては、「みどりの指針」に位置づけられるみどりのチカラを理解し、その効果が十分に発揮されるよう工夫することで、みどりのチカラを上手に生かしたまちや暮らしの実現を目指します。

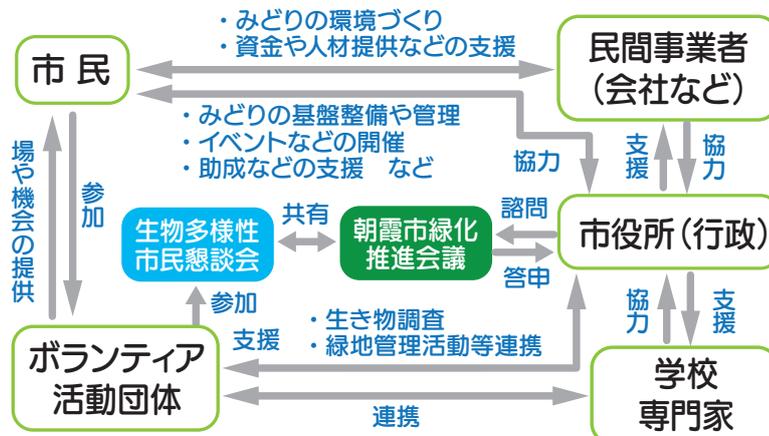
また、本市のみどりの課題を解決するため、「重点施策」を位置づけ、進行管理のために目標を定めています。計画目標は10年間の計画期間内で着実な実行を図るもの、将来目標は計画期間内に実行に努め、その後実現したい大きなものを掲げています。

— 基本方針 —	— 施策の柱 —	— 基本施策(★重点施策) —	— 個別施策 —	— 重点施策の目標 —		地域別取組
				計画目標	将来目標	
基本方針1 暮らしを支え豊かにする朝霞らしいみどりを整える	1-1 樹林地と農地の保全	(1) 樹林地等の担保性の向上★	①特別緑地保全地区の指定 ②保護地区・保護樹木の指定 ③文化財保護制度の運用 ④公有地化による樹林地等の確保 ⑤景観重要樹木の指定	特別緑地保全地区の指定拡大 約2.7ha(現況値+0.6ha)	特別緑地保全地区の指定拡大 約3.6ha(現況値+1.5ha)	内 間 木 地 域 北 部 地 域 東 部 地 域 西 部 地 域 南 部 地 域
		(2) 良好な里山環境の維持・再生★	①里山保全活動の推進 ②里山管理ガイドラインの策定	里山管理ガイドラインの策定・運用	里山管理ガイドラインの運用による良好な自然環境の保全	
		(3) 都市農地の保全	①生産緑地・特定生産緑地制度の運用 ②遊休農地の活用促進 ③景観作物の栽培 ④災害時の都市農地の活用			
	1-2 水辺の保全	(1) 湧水の保全★	①湧水地及び周辺環境の保全 ②雨水貯留浸透の推進	雨水貯留浸透施設等の設置推進	水循環の健全化による湧水源の涵養	
		(2) 河川の保全	①荒川近郊緑地保全区域における河川環境の保全 ②黒目川・新河岸川・越戸川の環境保全 ③朝霞調節池内の湿地環境の保全			
	1-3 公園の整備と管理	(1) 公園の整備推進★	①身近な公園の適正配置 ②基地跡地公園の整備推進 ③内間木公園の整備推進	まぼりみなみ公園の整備 内間木公園の拡張整備	基地跡地公園の整備	
(2) 公園機能の充実		①防災機能の充実 ②バリアフリー・インクルーシブデザインの推進				
(3) 公園の維持管理の充実★		①施設の維持管理の充実 ②維持管理性と美観を保つ公園等植栽管理指針の策定	公園等植栽管理指針の策定・運用	公園等植栽管理指針の運用による質の高い空間の創出		
1-4 道路・河川のみどりの育成	(1) 街路樹・並木の整備と管理	①持続的な植栽のあり方に関する検討 ②街路樹の適正な維持管理				
	(2) ウォーカブルな空間形成★	①河川沿いの散策路・親水広場の整備・管理 ②歩道のネットワーク化と管理 ③休息や健康づくりの場の整備	人中心の北朝霞駅北口広場の転換	朝霞駅周辺及び北朝霞・朝霞台駅周辺のウォーカブルな空間形成		
1-5 公共施設・民有地のみどりの育成	(1) 公共施設のみどりの整備・管理	①公共施設の緑化と管理 ②公共施設の植栽管理指針の策定				
	(2) 民有地のみどりの整備促進	①緑化支援制度の運用 ②まちづくりの制度を活用したみどりの確保				
基本方針2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる	2-1 みどりの担い手の育成と連携	(1) みどりの担い手の育成	①プレーパークの推進 ②みどりの講習会等の実施 ③環境学習の実施 ④教育分野における農業体験の促進 ⑤食育の推進	Park-PFI事業者による内間木公園の運営	様々な主体との連携による基地跡地公園の運営	
		(2) 担い手の連携の拡充★	①担い手のマッチング ②ボランティア活動団体の交流の促進 ③民間企業等の参画の促進 ④農の担い手の育成			
	2-2 みどりをしなやかに使う仕組みづくり	(1) 公園等の管理を通じたまちづくり	①公園サポーター制度の推進 ②市民や活動団体による朝霞の森の管理運営 ③みどりのリサイクルの推進			
		(2) 多様なニーズに対応するみどりの確保	①市民農園の推進 ②市民緑地制度等の活用 ③公園ごとの利用ルールづくり			
2-3 みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みづくり	(1) みどりのモニタリングの実施	①グリーンインフラの実態調査の実施 ②市民協働の生き物調査による生物データベースの整備 ③みどりの市民アンケート調査の実施				
	(2) みどりの普及啓発の推進	①グリーンインフラの多面的効用の評価と公表 ②グリーンインフラの多面的効用に資する緑化指導 ③地域社会に貢献するみどりづくりの促進				
2-4 みどりの支援体制の強化	(1) 財源の確保と活用★	①補助金等の活用 ②多様な財源の活用	機能維持増進事業の活用	多様な手法による財源の確保		
	(2) みどり・公園分野におけるDXの推進★	①公園管理におけるDXの推進 ②ウェブを活用したグリーンインフラの普及啓発	公園台帳のデジタル化	DXの推進による公園サービスの拡充		
基本方針3 みどりのある暮らしを楽しむ	3-1 みどりのシティプロモーションの展開	(1) みどりにふれ楽しめるイベントの開催	①みどり空間を活用したイベントの開催 ②里山環境の活用 ③農を通じた交流の場づくり	自ら情報発信できるオンラインプラットフォームの導入	市民が主体となったみどりの情報発信	
		(2) 情報発信の強化と充実★	①みどりの情報発信 ②市民イベント情報の集約と発信			
3-2 みどりのある暮らしの実践	(1) みどりを楽しむ★	①家庭での緑化や菜園づくり ②農産物直売施設等の利用 ③地産地消の実践 ④みどりを生かした健康づくり ⑤みどりのイベントへの参加	グリーントレイルマップの更新	みどり資源を生かした健康増進の場づくり		
	(2) みどりのボランティア活動への参加	①みどりのボランティア活動への参加 ②みどりのリサイクルへの参加 ③みどりに係る講習会への参加				
	(3) みどりの交流の拡大	①民間のみどりの公開 ②SNSを活用したみどりの交流				

計画の実現に向けて

1 計画の推進体制

目標の実現には、市民、ボランティア活動団体、民間事業者、学校、行政など、朝霞に係るすべての人が一体となって取り組むことが大切です。それぞれの強みを生かし、力をあわせて、朝霞らしいみどりを未来へ育てていきましょう。



2 計画の進行管理

(1) 進行管理を図るための目標設定

計画が着実に進んでいるか、客観的な目標(指標)で確認します。

目標項目	現況値 令和7(2025)年度末	目標値 令和17(2035)年度末
みどりの満足度 「そう思う(+1.0)」～「そう思わない(-1.0)」 までの5段階評価の平均	+ 0.29	+ 0.30
市域に占める緑地の割合	21.5%	22.3%
一人当たりの都市公園の面積	2.13㎡/人	3.16㎡/人
公園の利用頻度	30.9回/年	31.9回/年

(2) グリーンインフラの多面的効用のモニタリング

みどりが持つ多様な効果が、実際に発揮されているかを継続的に調査します。最新のデータや市民の皆さんの声をあわせ効果を検証します。

(3) 定期的な進行管理と計画の見直し

この計画の推進にあたっては、年度ごとに事業進捗を整理し、朝霞市緑化推進会議において検証を行います。また、社会情勢の変化やグリーンインフラの効果検証の結果を的確に反映させるため、「P(計画)－D(実行)－C(評価)－A(改善)」のサイクルを回し、定期的な計画の見直しを行います。

